

ID No.	248
研究課題名	二光子顕微鏡を用いたがん細胞薬剤耐性獲得機構の <i>in vivo</i> 光イメージング
研究代表者	星野 大輔 (神奈川県立がんセンター・主任研究員)
研究組織	
受入教員	村上 善則 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	越川 直彦 (神奈川県立がんセンター・部長)
	伊東 剛 (東京大学医科学研究所・助教)
研究報告書	
<p>Fucci (Fluorescent Ubiquitination-based Cell Cycle Indicator) : 細胞周期の特定の時期にのみ発現する 2 つのタンパク質にそれぞれ蛍光タンパク質を融合し、G1 期の細胞核で赤色、S/G2/M 期の細胞核で緑色の蛍光を発するプローブを安定発現するがん細胞に、レンチウイルスを用いて申請者らが同定したがん関連遺伝子を安定発現抑制株を樹立した。本年度は予定していた <i>in vivo</i> での解析まで至らなかったが、それに向けた <i>in vitro</i> 及び臨床検体を用いた予備実験を行ったところ、期待された結果が得られた。</p> <p>拠点研究は終了してしまうが、今回得られた結果をベースとしてさらなる研究を行っていく予定である。</p>	